

大垣真宗学院 同窓会

同窓会報 第2号

発行日 2009年10月5日
事務局 岐阜県大垣市伝馬町11
大垣教務所内
電話 0584-78-3363
FAX 0584-78-3353
郵便局振替口座番号 0830-7-206305

大垣教区同朋会館



第二回真宗学院同窓会にあいえて



同窓会長 佐藤 義成

(一九七一年卒 長阪)

同窓会会員の皆様には、益々ご清祥のことと存じます。昨年夏に発足いたしましたこの同窓会も、去る六月二十日に開催されました第二回同窓会をもちまして、もうやく二年目を迎えることになりました。これもひとえに皆様のご理解とご支援の賜物と篤く御礼申し上げます。当日の様子などご報告申し上げます。

開会の午後二時までは話の輪がいくつも作られ、遠近各地より同窓生五十名弱、先生方九名のご参加をいただきました。まず、教区同朋会館講堂におきまして総会を行いました。物故者追悼会、会長・学院長の挨拶の後、昨年の事業報告・会計報告がなされました。その中で、慶弔などについての内規を整備すべきとの意見をいただきましたので、次回総会にて内規についての提案をいたします。続いて次年度の事業計画・予算案が協議され、いずれも挙手により承認されました。

午後三時より、教務主任廣橋賢由先生から「学院の建学の精神について」の特別講義をいただきました。学院の歴史や「仏教教育のおこなわれる学園」設立の願い、師弟とともに導かれる「プラサーステム」など熱のこもったご講義でした。この講義内容につきましてはなんとか活字化していただけないものかなと思っております。休憩の後は、大広間に場所を移して懇親会でした。流くは日豊教区からお酒やおつまみを持参される方もあって、より一層場が盛り上がりました。

先生方をはじめ、参加者全員からのスピーチを聞きながら、卒業年度を越えて想親を深め合うとともに、廣橋先生からの特別講義によって改めて真宗学院建学の精神という願いを確認させていただけた尊い一日を過ごすことができました。

「九十五種世をけがす。唯仏一道さよくまます。」。根拠したこの世の中において、大台派教師である我々が、どのように日々を過ごすのかという大きな課題をいただいた日でありました。

この同窓会はまだまだ数年二歳です。今後の皆様のごさらなるお育て、ご理解、ご支援をお願いいたします。

合家

第2回 大垣真宗学院同窓会

開催 2009年6月20日
大垣教区同朋会館にて

特別講義では鷹橋賢由先生が、
信国淳師の「呼応の教育」に
ついて話されました



総会では会計報告や事
業報告などが承認され
ました



佐藤同窓会長を導師に、
学院関係者の物故者追
弔会が営まれました



大広間で和やかに懇親会が行われ、
懐かしい面々との会話が弾みました



同窓会にご参加くださった恩師の先生方

大垣真宗学院同窓会に参加して 「大垣真宗学院の思い出」



森 覚成
(一九七〇年卒 大垣)

昨年、歴史ある大垣真宗学院の同窓会が発会し、
今年の総会及び懇親会が先日開催され参加した。私
は名簿上では昭和四十五年卒業で既に昔のことであ
り、今年還暦を迎えた。

昨年の発会式及び記念式典で今までの講師陣や同
級生の話を聞き、随分たつたものだと感慨にふけっ
ている。思い起こせば大学生になり、夏休みを利用
して夏季講座三年間の真宗学院であった。

一年目は、午前に真宗学院、午後は大垣市内の自
動車学校に通った。当時の私の中心は専ら後者であっ
た。二年、三年と学院に通い、最終試験にも無事合
格し、三年目の八月末から九月初めにかけて本山で
の修練があった。その時代は七日くらいだったと思
う。修練が始まり数日たった日に、同じ修練中の学
生(たぶん福井県)の門徒さんが地元のスイカを決
山、トラックに積んで陣中見舞いに同朋会館にみえ
た。修練中の差し入れは禁止であったので事務所も
困った。そこで、そのスイカは他の上山奉仕の団体
にも、翌日の食事の時に振舞われた。寺族を大事に
するご門徒の姿を見て、すごい地域があるなあと思っ
た。何とか研修を終え、「人位」の称号を戴き、寺
族の一員としての意識を始めたときであった。

それから四十年近くになる。組の中での役職をも
らい、大垣教務所との行き来が増え、多くの寺族の
方々とふれあい、交流させていた中で、教えの
深さを感じる。今後は年齢の力を借り、図々しくい
ろんな機会の場に関わりを持ち、寺・門徒・住民と
出来ることは前向きに参加していきたい。

年に一度以上は上山して、組内の門信徒とともに
歩んで行きたいと思う。

「あの日に重ねて」



千葉 和子

(一九九六年卒 岐阜)

上山して食事の時、前に座られた方と話が弾む。Aさんは各地の講座に足を運び、大垣の公開講座にも行くとの事。Bさんは役員をしてみえて、熱心に開法されている様子だった。

Bさんに「お宅は？」と聞かれ、「婦人部の方と上山させて頂きました。今年で七年になります。食後、Bさんは「天狗にならないで下さいね」と言い残していかれた。一瞬、「えっ、どういうことか」。思いがけない言葉に戸惑う。毎年上山するのは、宗祖の御遺言法要の趣旨に忠えてのことである。でも、「上山奉仕を毎年続けて下さいですね」と言われ、それを心地良く聞く私が居る。Bさんはその事を言われたのだろうか。

しかし、不安な思いで初めて参加された方々の「来て本当に良かった。また来たいね。」ご影堂門を出て「これからが大変なんやな」の言葉に安堵し、パワーを頂く。また来年も来よ！



「同窓会に想う」



二宮 崇

(二〇〇〇年卒 日豊)

ひょっとしたら懐かしい顔にも会えるかと思ふ。期待を抱いて通々足を運んでみたけど、指導の方々を除いては、二人しか顔見知りに出会えなかったのは淋しいことでした。

私達の同窓会は、単に同じ場所で学んだというだけでなく、終生同じ道を同じように歩もうとしている同行、同朋の集団だと思えます。「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す」(安楽集 聖典四〇一)。祖師聖人が教行信証の終わりに取り上げたこの文は、私達にかけられた強い願いだと重く受け止めています。鷹橋先生が今回の講義で熱っぽく語っておられた「呼応の教育」も同じ願いからに違ひありません。

来年の同窓会には、スタッフまかせにしないで、私達も身近な方々に参加を呼び掛けて、交流を通して、学び合いの場とエネルギーを更に拡大していこうではありませんか。

「私って…?」



飯田 季美子

(二〇〇二年卒 三重)

大変失礼な話なのですが、お顔を拝見しても、お名前が思い出せない先生もおられ、同期の方々に尋ねると、「〇〇〇〇の先生よ!△△△△△△のレポートを書くようになって言われた、あの先生!」と言われ、突然、目の前に十年前の講義の光景が浮かび、あの頃の学び



の場が思い出され、懐かしさでいっぱいとなりました。また、多分、同窓会に出席しなければ一生顔を会わすこともなかったかもしれない出会いをいただき、同窓会を開いてくださったこと大変うれしく思いました。…と大喜びしていたら、最後に原稿依頼があり、突然気が重く楽しさはどこへやら…。依頼を拒み続ける自分の中に、認めてもらいたくない自分、あるがままの自分、よしとできない自分を発見!卒業してもなお、変わりのない自分であるということに改めて思い知らされた同窓会でした。

「大垣真宗学院同窓会と私」



藤井 智孝

(二〇〇七年卒 福井)

今年も同窓会の案内ハガキが来た。このハガキを見るとウキウキしてしまふ自分がある。またみんなと会えると思うとドキドキしてしまふ。ハガキが来て数日すると、携帯が鳴り出す。「今年も駐車場の誘導よろしく」と。ふたつ返事で「いいですよ」と返答。実は当日まで嬉しくって、まるで子どもの遠足状態。眠れない。でも今年の同窓会にはちょっと違った。懇親会で隣に座られた男性が一言、「同級生もいないし、知っている先生方もいないし一人ぼっちやなあ」と寂しそうであった。ハッ



今年も同窓会の案内ハガキが来た。このハガキを見るとウキウキしてしまふ自分がある。またみんなと会えると思うとドキドキしてしまふ。ハガキが来て数日すると、携帯が鳴り出す。「今年も駐車場の誘導よろしく」と。ふたつ返事で「いいですよ」と返答。実は当日まで嬉しくって、まるで子どもの遠足状態。眠れない。でも今年の同窓会にはちょっと違った。懇親会で隣に座られた男性が一言、「同級生もいないし、知っている先生方もいないし一人ぼっちやなあ」と寂しそうであった。ハッ

としました。自分には近年一緒に卒業した仲間がいて、ただその仲間と会いたかっただけかもしれない。横の糸ばかり見て、縦の糸が見えていなかった。反省です。来年は縦の糸をもっと大事にしなくては心が痛みました。帰りの道端で手を振って別れたあの男性とまた来年お会いできることを願って、もう一年生きていきたいと思っています。

「参加者募集中です」



山浦 直子

(二〇〇八年卒 名古屋)

「学院での学びは実生活においては間に合わなくなりそうです。これからは自分の学習会のようなものを持つように」。

真宗学院卒業時にある先生からいただいた言葉を日々実感し、一年が過ぎました。ようやく本年五月より、飯山等先生に『教信信証講読』をお願いし、学び始めることとなりました。学院を縁として出遇ったかけがえのない師友と共に、一歩を踏み出したばかりです。まだまだ試行錯誤中の手作りの会ですが、同じ時間を共有する中で学び合い、語り合い、気付きの場になればと思っています。



親鸞聖人の念仏は、僧伽の集まりが単に楽しい新しい関係を築くのではなく、私達一人ひとりに道が開かれてくるということを教えてくださっています。僧伽がどこまでも続く道となり、その道に自分を尋ねてゆきたいです。同窓会諸先輩の皆様に参加をお待ちしています。

会計報告

総会、懇親会に先生方も含めて47名の方々のご参加を頂きありがとうございました。

総会では次の内容で初年度(08年度)の会計報告及び今年度の会計予算の承認を頂きました。

09年度予算概要(09/4~10/3末)

収入	繰越金	156万6150円	(終身会費納入率27%)
	会費	20万円	
	参加費	17万5000円	
収入計		194万1150円	
支出	会議費	27万5000円	
	事業費	3万5000円	
	事務経費・他	8万6000円	
支出計		39万6000円	
繰越金		154万4150円	

08年度収支決算概要(～09/3末)

収入	会費	145万円	(145人、終身会費納入率24.5%)
	参加費	57万1000円	
	寄付金	23万円	
収入計		225万1000円	
支出	会議費	56万160円	(会報誌刊行費)
	事業費	3万3190円	
	事務経費・他	9万2500円	
支出計		68万5650円	(会報誌送付費等)
繰越金		156万6150円	

総会終了時点までの予算執行状況は次の通りです。

収入	会費	15万円	(終身会費納入率26.2%)
	参加費	12万2900円	
	寄付金・等	4万2085円	
収入計		31万4985円	(35名分)
支出	会費・懇親会費	14万4184円	
	総会準備費	6万5481円	
支出計		20万9665円	

第三回同窓会のお知らせ

第二回同窓会は、総会の会場を大垣教区同朋会館講堂で、懇親会を同館大広間で行いました。多くの皆さまにご参加いただき、和やかな、そして親密な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

次回の同窓会は二〇一〇年の六月五日(土)午後、場所は同じく教区同朋会館を予定しております。詳細は後日ご案内させていただきますが、鷹橋賢山先生による特別講義もありますので、どうぞ、お誘い合わせでご参加ください。

同窓会役員の紹介

- (会長) 佐藤 義成 (一九七一年・長浜)
- (副会長) 高田 康平 (一九八九年・岐阜)
- (副会長・広報) 小宮原 まや (二〇〇五年・岐阜)
- (書記) 三山 涼子 (一九八七年・長浜)
- (広報) 海北 智子 (二〇〇七年・長浜)
- (会計) 横井 園恵 (二〇〇七年・大垣)
- (会計) 児玉 俊雄 (一九九六年・大垣)
- (会計) 杉原 光子 (二〇〇八年・大垣)
- (会計) 深田 和枝 (一九九九年・高山)
- (会計) 林 文照 (一九九〇年・大垣)

編集後記

ようやく同窓会報第2号をお届けできて、ほっとしています。懇親会場で原稿をお願いしたところ、気持ちよく引き受けてくださった皆様、誠にありがとうございました。二宮さんから原稿とともに、こんなお便りをいただきました。『淋しかったとは言ったけど、活は違っても同じ場で学んだ人達との交流は楽しかったです。しかも、話すチャンスが失ったと残念に思う多分先輩だろう講読。若い活気に満ちた多分後輩に足りない人達。進歩感というか、仲間意識というかそんな力をいただいた素晴らしい一日でした。』

たとえ同期は来ていなくても、ここに集まれば故郷の情を深められるとともに、新たな出遇いの喜びがある。そんな同窓会になればと願っています。また来年、皆様とお会いできることを楽しみにしています。(林)